

# NSPA JAPAN

The Natural Science Publishers' Association of Japan

## 自然科学書協会会報

発行人・後藤 武  
編集・広報委員会



新理事長ご挨拶と抱負  
いま協会が取り組むべき課題から

理事長 後藤 武

新専務理事ご挨拶と抱負  
新専門委員長ご挨拶と抱負

東京国際ブックフェア2009をかえりみて

2009 11/16 NO. 4

<http://www.nspa.or.jp/>

社団法人 自然科学書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 神保町 101 ビル 1 階 TEL 03-5577-6301

### 新理事長ご挨拶と抱負

いま協会が取り組むべき課題から

理事長 後藤 武



このたび協会役員の改選により、  
も前任の本郷允彦さんから理事長職  
の大任を引き継ぐことになりました。こ  
うえは新役員と共に協会の更なる発展を  
期して微力ながら力を尽くす所存です  
で、皆様には一層のご指導・ご鞭撻を賜り  
ますようお願い申し上げます。

さて、出版界は長年の低迷に喘ぎ、依  
然先行き不透明の状態が続いております。  
とりわけ子どもの専門書分野は教育現場  
での理工離れが進むなか折からの世界的  
不況が追い打ちをかけるなど、その環境は  
一段と厳しさを増してきております。こ  
んなどきだからこそ、戦争の廃墟から立ち  
上がって築き上げてきた先達たちに思いを  
馳せ、その叡智と不屈の精神に学びこの難  
局を乗り切っていきたいものです。

**当** 協会は様々の課題を抱えております  
が、まず公益法人制度改革に伴って、  
公益的な事業を主体とした公益社団法人

になるか、業界中心の事業を行う一般社  
団法人にするかをこの三年のうちに結論  
を出して、それに沿った形で事業展開をし  
ていく必要があります。当面は一般社団法  
人として活動し、その後公益社団法人  
に申請する選択もありますが、いずれ  
にしても近々に方向を決める必要があり  
ます。

**科** 学技術の振興と自然科学書の普及の  
ための活動は、これまで進めてきた

事業を踏まえながらも、より効果的で即  
効性のあるものを企画していきたいもの  
です。海外のブックフェアへの出展協力、東  
京国際ブックフェアにおける「自然科学書  
フェア」の後援・出展のほかに、前年度か  
ら始めた地方都市でのブックフェアと講演  
会の同時開催、サイエンスカフェの共催な  
どは、それなりの効果が期待できると思わ  
れますが、協会総予算との兼ね合いもあ  
り、おのずと事業規模には限界がありま  
す。しかし、これらを継続的に行うこと  
によって社会的にも認知され、成果も上が  
っていくことになるでしょう。特に大型書店  
でのブックフェアは「自然科学書売場全体  
がフェア会場」という設定で、読者を書店  
に誘導して実際に本に触れてもらうこと  
を目指しています。現状ではこういう地道な  
活動を通して普及拡大を図ることが大切  
であると考えています。

**著** 作権法の普及と出版者の法的権利  
確立のための活動も長年取り組ん  
できた事業です。近年、著作権法上の権利

制限を拡大する動き（いわゆる「日本版フェアユース」）があるほか、デジタルが図書館  
の蔵書を権利者に無断でデジタル化して  
検索可能にした図書館プロジェクトは世界  
中を巻き込んだ集団訴訟となり、その和  
解に参加するか否かの選択を問われていま  
す。また国立国会図書館が進めているデ  
ジタルアーカイブの充実に伴い、それを活  
用して配信機関経由で全国民がどこから  
でも閲覧（有料）できるようにしようとい  
う「ジャパンブックサーチ構想」も、関係団  
体等が参加した提言協議会で具体的検討  
に入りつつあります。これらには著作者・  
出版者の権益を守る立場から、また出版  
文化産業の将来展望に照らして、関連各  
団体と連携しながら適切に対処していくこ  
とが求められます。

**今** 日の出版事情は急激な変革期にあ  
りますが、この状況を十分に把握し

理解して出版活動を行う必要があります。  
出版システム全般にわたる研鑽を積み、ス  
ムーズな出版活動を行うための「研修」も  
協会が行う重要な事業です。  
さらに出版物に対する再販制度維持の  
運動や出版物の消費税率軽減要請、その  
他にも協会が行うべき多くの事業がありま  
す。  
協会では各専門委員会相互の連携を密  
にして成果を上げていく考えですが、会員  
の皆様には今後とも協会活動にご参加い  
ただき、倍旧のご支援・ご協力を賜りま  
すようお願い申し上げます。

## 新専務理事ご挨拶と抱負

専務理事 筑紫恒男

引き続き二年間専務理事を務めることとなりました。よろしくお願い致します。

公益法人の見直しを視野に入れ、当協会は、定款の変更、公益的活動の積極的展開、さらに事務所の新設と、この二年はいろいろの意味で、活発な活動をしてきました。おかげさまで関係された方、参加された方からは好評をいただいています。また、事務所開設によって事務処理がスムーズに運んでいます。改めて関係各位に感謝致します。

これからの二年間は、今まで展開してきた活動を経典的活動として定着させることが大事ではないかと思われまふ。

さらに、ゲージル問題や国立国会図書館のデジタル化等に象徴されている、出版物データ化にどのように対処すべきか、専門書を複写から守るためJCOPYにどのように協力していくべきか、出版物の販売不振にはどのような方策が考えられるか、等々、今私たちを取り巻く環境に対し、しなければならぬことは山積しています。さらに、公益社団法人を目指すための整備もしなければなりません。

協会の活動は、会員社の協力があつて成り立つものであります。協会の実働部隊は専門委員会です。各会員社に委員の登録をお願いして委員会を構成していますが、残念ながらほぼ三分の一にあたる二三社からは委員の登録がありません。会員社どうし

の交流も含め、全社協力のもと、委員会が構成されますことを願っています。

社団法人として行うべき事業は何か、会員社にとって必要なことは何か、みんなの協力のもとでどのようなことが社会に向けて発信できるか、あわせて自然科学専門書の普及にいか力を注ぐことができるかを、全員で考えて推進していきたいと考えています。

## 新専門委員長ご挨拶と抱負

●総務委員会

昨年開設した当協会事務局は、優秀なスタッフにも恵まれ順調に機能しております。また、事務局開設と同時に運用を開始した協会ドメイン(nspac.jp)による電子メールは、文部科学省など対外的な情報伝達のみならず、内部への迅速な情報伝達にも活用し、結果、通信コストの削減にも結びつくものと期待しております。

九月には文部科学省の担当官二名による実地検査があり、運営・会計の両面について口頭での指導がありました。これについては、今後の協会活動を念頭に優先順位を付けて対応したいと思ひます。

一〇月には会員名簿を作成し会員及び関係団体等に配布することができました。また、今期第一回の総務委員会を開催し、今期の課題や方向性等について意見交換を行いました。

今期取り組むべき主な課題としては、  
・総務委員会の組織力の強化  
・新公益法人会計基準への適合化

・ホームページを使った積極的な情報公開があります。

組織力強化については、委員の増員を実現するとともに、ホームページワーキンググループではメンバー相互の情報交換の場としても機能させたいと思ひます。なお、ワーキンググループには、昨年引き続き、東海大学出版会の諸星安紀さん、森北出版の小林巧次郎さんにご参加いただいております。

新公益法人会計基準への適合化については、顧問公認会計士と連携してこれに対応したいと思ひます。

ホームページを使った情報公開については、今後公開すべき情報を精査するとともに、決算書、事業報告書等については既に過去五期分を公開するなど積極的な対応を進めております。

さて、年内の主な行事は、一二月三日(木)に東京會館にて年末会員集会の開催を予定しております。

多数のご参加をお願いします。  
(委員長 飯塚尚彦)

## ●広報委員会

このたび新たに理事に選任されるとともに、運営の中心が戦後世代になるようにという新理事長のお考えから広報委員長を仰せつかりました。担当常務理事、副委員長、委員の方々いずれも経験豊富なスタッフが多く、心強い限りではありませんが、何事につけ、皆様方のお力添えをいただきながら、努めて参りたいと思ひますのでなにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

広報委員会としては、協会内もさることながら外部の方々への広報も適切に行い、協会活動を十分知っていただくと共に、新委員の増強なども計っていきたく思ひます。

そのために、まず一月、四月、七月、一〇月を基本に、年四回の会報の発行を行い、主な記事として、理事会の動向や決定の通知、各専門委員会の活動報告、講演会の要約、各分野の有識者による自然科学書に関わるエッセイ、書籍流通に関わる方々の自然科学書版元への意見・要望、国際ブックフェアの報告等々を通じて上記目的の一端を果たします。

これらの記事はホームページにおいても公開し、また、会報は東京国際ブックフェア会場や日本出版クラブ会館ロビー等に置くほか、各関連団体等へも送付し、広く関心を寄せられる方々にお読みいただきたいと思ひます。

さらには、販売・出展委員会担当の「自然科学書フェア」との連携をはかりつつ、協会講演会を企画実行していきます。

委員会内で活発な議論をいただき、会員各社の声を十分に反映させながら運営していきたく思ひますので、重ねて皆様の暖かいご協力をお願いする次第です。  
(委員長 竹生修己)

## ●著作・出版権委員会

昨今の複写機器の進歩、電子出版の普及さらにはネット化時代を迎え、著作権をめぐる課題は年々広汎にかつ複雑になりつつあります。著作・出版権委員会といたしましては、自然科学書という専門出版社の団体

として、こうした社会の変化に対応するべく、今期の行動計画として下記の五項目を掲げました。

①著作権法における出版物と出版者の保護のための活動

(1) 出版者の権利保護ならびに著作隣接権としての出版者固有の権利創設

(2) 権利制限の動きに対する専門出版社の立場からの提言

(3) デジタル・ネット化時代に対応した著作権保護、著作物の適正利用の推進

(4) 出版物の複写許諾に対する集中処理機構の再整備と一本化

②著作権知識の正しい理解と普及のための活動

(5) 著作権知識の正しい理解と普及

(1) (5)につきましては、前期に引き続きまして出版者の権利の確立と著作権の知識の普及に努めてゆきたいと考えております。

(2)に掲げました権利制限につきましては、いわゆる「日本版フェアユース規定」の問題が近年取り上げられています。これは専門出版社にとつては大きな影響をもつものでありますので、必要に応じて提言することも考えてゆきたいと存じます。

(3)につきましては、会員各社でも対応が迫られている課題を抱えていると思えます。一例をあげますと、改正著作権法が来年施行され、国会図書館では蔵書のデジタル化が認められることとなります。すでに同図書館は具体的にデジタル化に向けて動き出してあります。当委員会としても著作物の適正利用の観点からその動きに対応してまいりたいと考えております。

(4)につきましては、本年七月にJCOPY(一般社団法人出版者著作権管理機構)が発足したことにより、複写管理業務の一本化の環境が整いつつあります。当委員会としてもその推進に努める所存であります。

最後になりますが、ここに掲げました行動計画を推進してゆくためには、会員各社のご支援とご理解が不可欠でございます。何とぞご助力賜りますようお願い申し上げます。

(委員長 大畑秀穂)

### ●国際委員会

本年八月五日の定例理事会にて国際委員長を拝命いたしました。何分にも不慣れなお役目ですが、国際経験豊富な金原副委員長はじめ本委員会委員のご助力を仰ぎながら肅々と責務を果たして参りたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

さて、九月三日(木)から七日(月)まで第一六回北京国際ブックフェアが中国国際会議展覧センターで開催されました。二、一四六のブースに五六の国と地域の

一、七〇〇余りの出版社が出品し、同フェアは、昨年同様日本パビリオンの一画に自然科学書独自のブースを設け、昨年をやや上回る規模で、会員社発行の出版物を面陳しました。また自然科学系各協会の目録と各出版社独自の目録を展示しました。現場に詰めていただいた本協会理事および会員社の日本ブース展示担当者からの報告によりますと、中国の自然科学系出版社の来訪も受けましたし、用意した目録はすべて配布

されました。来年も同フェアへの出展を予定しています。

一〇月四日(水)から二八日(日)までは第六一回フランクフルトブックフェアがフランクフルト国際見本市会場にて開催されました。こちらも例年通り、出版文化国際交流会の、当協会・出版者会・大学出版部協会共同ブースでの展示となりました。こちらについては、昨今のデジタルコンテンツの台頭を象徴するアマゾンのキンドルやそれに追随するアップルなどの革新的な動きに刺激されたかのように、日本の出版社に対してもeBook等についての問い合わせが散見されました。

今後、出版文化国際交流会や書協と連携を図りながら、ソウル、北京などアジアの国際ブックフェアやフランクフルトブックフェアなど規模の大きい国際展示会へ必要に応じて出展を企画していく予定であります。

(委員長 小立鉦彦)

### ●販売・出展委員会

社業において営業経験のない身でありながら、当委員会の委員長を指名され、いささか戸惑いはあります。しかし、委員には、加盟各社の営業のベテランで当委員会でも長く活躍されておられる方たちが揃っています。知らないことは皆さんから教わりながら、役務を全うしたいと思えます。まずは、これまでの良好なチームワークが乱れることのないよう、約四〇名の委員会全体のコミュニケーションの円滑化を心がけます。委員会のあとの懇親会も、大切だと考えています。

この度、第五九期/第六〇期の研修委員会委員長の役務を拝命いたしました。この委員会は、第五七期は情報システム

メイン・イベントは「東京国際ブックフェア」ということになりましたが、来年は七月八日(木)より七月二一日(日)まで開催されます。具体的な作業も多いので、これまでと同様に(運営小委員会)・(レイアウト小委員会)・(設営小委員会)の三つの小委員会を設け、それぞれに委員の中から幹事と副幹事を一名ずつ選任し、実働の核となつてもらうこととしました。今年の反省点も踏まえ、一般来場者にもアピールできる企画展示も考えて、販売額のアップにつなげていきたいものです。

当協会単独の自然科学書フェアは、今年五月から六月にかけて、京都、仙台で開催しましたが、来年は八月から九月にかけて、丸善さんの名古屋栄店でやらせていただくことで了解を得ています。お店の担当者からは「ふだん店の棚に並んでいるものではない、テーマ性の強いフェアを。そして、売れるフェアを」と言われています。これから、委員会でしっかり話し合います。

出版界全体が売上を下げつつける厳しい環境下にあります。当委員会の会合や活動の中で、各社から出ている委員たちの声に耳を傾け、各社が販売力をアップしていくために役立つような研修テーマをひろいあげ、研修委員会に提案することも考えています。

(委員長 森田 猛)

### ●研修委員会

この度、第五九期/第六〇期の研修委員会委員長の役務を拝命いたしました。この委員会は、第五七期は情報システム

委員会、第五八期には出版システム研究委員会として活動されてきた委員会を名称も新たに開設されたものです。

昨今、話題・問題にもなっておりますグループブック検索問題や、またそれに触発された「ジャパンブックサーチ」構想、アマゾンのKindleをはじめとする電子書籍端末の相次いで登場、大学内でのe-learningの普及、書店、流通企業の合併や事業提携による書籍電子サービスの促進などに対応すべく我々専門書出版社も書籍・雑誌のデジタルコンテンツ化について、大いに検討・研究する必要があります。またそれ以外でも現在出版界で話題や問題になっているテーマも数々あることでしょう。それらを検討し、会員各社に役に立つ講演会・勉強会を出版界とも連携しながら、企画・開催できるように委員会活動を運営できればと思います。

また、自然科学を讀者の皆様身近なものと感じていただけるよう、昨年も企画・開催され好評を得ました「サイエンスカフェ」を文科省や書店と提携して、今期も継続して企画・開催できるようにしたいと思います。さて、去る一〇月二七日に第一回目の委員会を開催いたしました。各委員の皆様も当委員会活動に対し、活発な意見交換があり、その中で、各大学にて急速に普及しており、専門書出版社の生命線でもあります教科書採用採択にも影響を及ぼしているかと思われる「LMS（ラーニング・マネージメント・システム）」について話題が集まり、早速、次回委員会にて担当委員による研修会を開催することにいたしました。詳細につき

ましては改めてご報告いたします。なにぶん委員長として浅才非学な身ではございますが、幸い南條担当常務理事・及川副委員長と経験豊富な方々に恵まれ、また、山口前委員長も副委員長として留任され、心強く感じている次第です。

（委員長 曾根良介）

### 東京国際ブックフェア2009 をかえりみて

常務理事 平田 直

第一六回東京国際ブックフェア（TIBF 2009）は、七月九日（木）～二日（日）までの四日間、東京ビッグサイト西展示棟ホールにおいて開催されました。来場者数は主催者発表によりますと、六四、八四四人でした。基調講演では、『悩む力で現代の古典を発掘する』と題して、姜尚中東京大学大学院教授が、〈閉塞状況にある日本出版界は、さらに想像力を働かせて様々な新しい視座にたち、なお叡智をもって現状打破することが可能である〉と幅広い出版関係者を勇気づける熱演で感銘を与えました。フェア期間中、基調講演を含む一四の東京国際ブックフェア専門セミナー、六つのデジタルパブリッシング専門セミナー、四つの教育ITソリューション専門セミナー等が開催されました。

自然科学書協会の共同ブースへの出展参加社は六二社でした。総出展冊数

二、四七九冊、売上冊数は四〇一冊で、総売上金額は、二九五、七一五円でした。直近三年間の総売上金額年次推移をみると、二〇〇七年の一四四万円をピークに、二〇〇八年の一四〇万円さらに本年と低減傾向がうかがえます。

本年は特別企画として、各社の代表的な『事典・辞典・図鑑・アトラス類』二～三冊の出展を呼びかけこれをプラットフォームで展示販売しました。おおむね参加者には好評だったようです。従来の面陳による新刊類とは平均単価が約二倍（＝七、〇〇〇円）であったことも含めて、今後の専門書共同ブースのあり方に二石を投じた格好といえそうです。

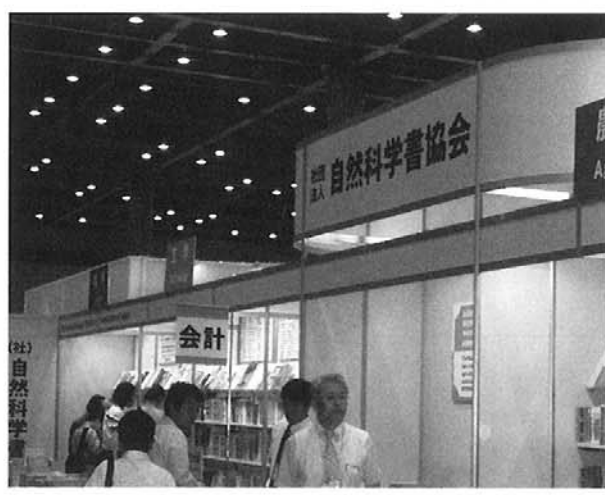
今年の新しい試みとして、『自然科学書協会出品展示リスト』を作成しました。これは、全出品書籍の分類（理学・工学・農学・家政・医学）、書名、出版社名、ISBN、本体価格などを印刷したA4判一〇頁程度の小冊子です。事前にTIBFへの来場お誘いをおこなって関東近郊の大学・短大の図書館にDMをしました。会期中の実売とは別に、このリストによる追加発注を期待したいところです。

委員の反省会では、一般来場者にアピールできるもつと魅力的な特別企画を工夫する必要がありそうだという意見が出されました。例えば、各分野の入門書ばかりを集めたコーナーを新設するとか、マンガを基本コンセプトとして展開される自然科学各分野の学術内容そのもの、というような奇抜な提案もありました。

東京国際ブックフェアが現在のようなスタイルをとりだして、一〇年を迎えようとして

ていますが、そろそろ冠名にふさわしいブックフェアとなるように、その基本的なプリンシプルと特徴について関係者が真剣に議論する時を迎えているのではないのでしょうか。

来年の第一七回TIBFは、二〇一〇年七月八日（木）から二日（日）まで東京ビッグサイト西展示棟ホールで開催される予定です。



### 第五九期／六〇期役員（\*は新任）

- 〈理事長〉 後藤 武（彰国社\*）
- 〈専務理事〉 筑紫恒男（建帛社）
- 〈常務理事〉 宮部信明（岩波書店\*）
- 南條光章（共立出版）
- 新谷滋記（工業調査会\*）
- 平田 直（中山書店\*）

〈理事〉 朝倉邦造(朝倉書店)

金原 優(医学書院)

大畑秀穂(医歯薬出版)

竹生修己(オーム社\*)

曾根良介(化学同人)

長 滋彦(技報堂出版\*)

牛来真也(コロナ社\*)

飯塚尚彦(産業図書)

田中久米四郎(電気書院\*)

山口雅己(東京大学出版会)

小立鉦彦(南江堂\*)

山本 格(培風館)

森田 猛(緑書房)

及川 清(養賢堂)

岡田吉弘(海文堂出版)

伊藤富士男

(農山漁村文化協会\*)

大谷健美

(文化産業信用組合)

〈顧問〉 本郷允彦(南江堂\*)

佐藤政次(オーム社\*)

長 祥隆(技報堂出版)

志村幸雄(工業調査会\*)

牛来辰巳(コロナ社\*)

森北 肇(森北出版)

第五九期／六〇期専門委員会委員

●総務委員会

〈担当常務理事〉 南條光章(共立出版)

〈委員長〉 飯塚尚彦(産業図書)

〈副委員長〉 長 滋彦(技報堂出版)

山本 格(培風館)

〈委員〉 片岡一成(恒星社厚生閣)

HPWG 諸星安紀(東海大学出版会)

HPWG 小林巧次郎(森北出版)

●著作・出版権委員会

〈担当常務理事〉 宮部信明(岩波書店)

〈委員長〉 大畑秀穂(医歯薬出版)

〈副委員長〉 及川 清(養賢堂)

岡田吉弘(海文堂出版)

〈委員〉 川口達也(朝倉書店)・金

原優(医学書院)・天野徳久(医学書院)・

子安孝夫(医歯薬出版)・鈴木泰彦(井

上書院)・平形登志恵(オーム社)・山口

啓子(学窓社)・横田穂波(共立出版)・

太田 博(杏林書院)・柴田勝祐(金芳

堂)・根津龍平(建帛社)・一色和明(工

業調査会)・山口重和(講談社サイエン

ティフイク)・大井隆之(コロナ社)・御

園生晴彦(サイエンス社)・鈴木正昭(産

業図書)・今里美幸(実教出版)・小野達

也(裳華房)・小林孝雄(昭晃堂)・橋本

成一(昭晃堂)・渡辺嘉之(総合医学社)・

田中 昇(電気書院)・橋元博樹(東京

大学出版会)・横井 信(南江堂)・福

田久子(北隆館)・角谷裕通(北隆館)・

羽貝雅之(緑書房)・正路 修(メディアカ

ル・サイエンス・インターナショナル)・

森北博巳(森北出版)・三浦信幸(養賢

堂)・谷内宏之(理工図書)

●国際委員会

〈担当常務理事〉 宮部信明(岩波書店)

〈委員長〉 小立鉦彦(南江堂)

〈副委員長〉 金原 優(医学書院)

〈委員〉 山口雅己(東京大学出版会)

青柳三樹男(南江堂)

●販売・出展委員会

〈担当常務理事〉 平田 直(中山書店)

〈委員長〉 森田 猛(緑書房)

〈副委員長〉 牛来真也(コロナ社)

伊藤富士男

(農山漁村文化協会)

〈委員〉 佐藤和彦(朝倉書店)・上

原達史(医学書院)・小川文一(医歯薬

出版)・高田光明(オーム社)・當山臣人

(海文堂出版)・吉原寿和(化学同人)・

石川省二(金原出版)・木村邦光(共立

出版)・長 範彦(技報堂出版)・姫野

尚之(建帛社)・高城 献(工業調査会)・

秋浜直治(コロナ社)・佐藤 弘(相模書

房)・清積康介(シーエムシー出版)・小

林祥浩(実教出版)・宮内耕次(裳華房)・

小島祐二(彰国社)・御園英伸(誠文堂

新光社)・山内 裕(第一出版)・金井秀

弥(電気書院)・諸星安紀(東海大学出

版会)・西澤政幸(中山書店)・清水 豊

(南江堂)・福田徹哉(農山漁村文化協

会)・石田 聡(文永堂出版)・田代勢至

(丸善)・三澤 岳(メジカルビュー社)・

西村直己(養賢堂)

●研修委員会

〈担当常務理事〉 南條光章(共立出版)

〈委員長〉 曾根良介(化学同人)

〈副委員長〉 山口雅己(東京大学出版会)

及川 清(養賢堂)

〈委員〉 後藤 力(朝倉書店)・山

田貴史(化学同人)・筑紫和男(建帛社)・

平井里志(工業調査会)・木下敏孝(サ

イエンス社)・尾崎義郊(実教出版)・福

島正太(東京大学出版会)・宇野文博(同

文書院)・馬場一嘉(日本工業出版)・斉

藤 淳(培風館)・石黒健治(緑書房)

●広報委員会

〈担当常務理事〉 新谷滋記(工業調査会)

〈委員長〉 竹生修己(オーム社)

〈副委員長〉 長 滋彦(技報堂出版)

田中久米四郎(電気書院)

〈委員〉 瀧原恒平(朝倉書店)・高

杉 昇(家の光協会)・竹西素子(オ

ム社)・大井隆之(コロナ社)・三宅恒太

郎(彰国社)・遠矢良太郎(南江堂)

●税制・再販流通特別委員会

〈委員長〉 後藤理事長

〈副委員長〉 筑紫専務理事

〈委員〉 宮部常務理事 南條常務

理事 新谷常務理事 平田常務理事

朝倉理事 山本理事 本郷顧問

●著作・出版権特別委員会

〈委員長〉 後藤理事長

〈副委員長〉 筑紫専務理事

〈委員〉 宮部常務理事 南條常務

理事 新谷常務理事 平田常務理事

金原理事 大畑理事 及川理事 岡田

監事

●公益法人特別委員会

〈委員長〉 後藤理事長

代表者三三名が参加した。(委任状三四名)。

### 【第五九期理事会・委員会開催一覽 (二〇〇九年七月〜十月)】

#### ●理事会

・七月九日(木) 七月臨時理事会/二二時〜

一三時一五分 東京ビッグサイト

・七月一六日(木) 七月定例理事会/一五時〜

一六時三〇分 日本出版クラブ会館

・八月五日(水) 八月定例理事会/一六時三〇

分〜一七時三〇分 つきじ治作

・九月一七日(木) 九月定例理事会/一五時〜

一七時 日本出版クラブ会館

・一〇月二日(水) 一〇月定例理事会/一五時

〜一七時 日本出版クラブ会館

#### ●専門委員会

・七月二日(木) 監事会/二二時〜一四時

文化産業信用組合

・七月八日(水) 常務理事会/二二時〜一四時

文化産業信用組合

・七月一七日(金) 販売・出展委員会東京国際

ブックフェア運営委員会/九時〜一六時 文

化産業信用組合

・七月一七日(金) 販売・出展委員会/一六時

〜一七時三〇分 文化産業信用組合

・八月二七日(木) 常務理事会/一八時〜二〇

時 むつみ

・一〇月八日(木) 広報委員会/一六時〜一七

時 文化産業信用組合

・一〇月二二日(水) 総務委員会/一三時三〇

分〜一四時三〇分 日本出版クラブ会館

・一〇月二六日(月) 著作・出版権委員会/

一五〜一七時 日本出版クラブ会館

・一〇月二七日(火) 研修委員会/一三時三〇

分〜一五時 日本出版クラブ会館

#### 【その他】

◆七月九日(木)〜七月二二日(日) 東京ビッ

グサイトにて東京国際ブックフェア2009

が開催され、当協会も後援し出展した。

◆九月二日(水) 「平成二二年度科学技術分

野の文部科学大臣表彰」受賞候補者のヒア

リング(文部科学省)

◆九月二八日(月) 文部科学省実地検査/

一四時〜一七時 文化産業信用組合

#### 【事務局だより】

〈住所変更〉

●株式会社緑書房

旧住所 東京都千代田区神田錦町三二二

JPR クレスト竹橋ビル

新住所 東京都中央区東日本橋二一八三

東日本橋グリーンビル

新電話 ○三六八三三三〇五六〇

新ファクス ○三六八三三三〇五六六

●株式会社鹿島出版会

旧住所 東京都港区赤坂六二一八

新住所 東京都中央区八重洲二一五二一四

新電話(代表) ○三六二二二二五二〇〇

新ファクス ○三六二二二二五二〇四

#### ■年末会員集会開催のお知らせ

当協会恒例の年末会員集会在、二月三日

(木)一八時より東京會館二階ホールで

開催されます。相互交流を深めるタペ

として、会員代表者、各専門委員の皆様のご

参加をお願いします。

#### 第五九期/第六〇期広報委員

〈担当常務理事〉 新谷滋記(工業調査会)

〈委員長〉 竹生修己(オーム社)

〈副委員長〉 長 滋彦(技報堂出版)

田中久米四郎(電気書院)

〈委員〉 瀧原恒平(朝倉書店)

高杉 昇(家の光協会) / 竹西素子(オ

ム社) / 大井隆之(コロナ社) / 三宅恒太郎

(彰国社) / 遠矢良太郎(南江堂)

#### 編集後記

先日バスポートの更新のための証明写真を  
撮りに行って、「これで焼き増しできますから」と  
写真と一緒に渡されたCD-Rに、ちよつと  
感動してしまいました。自分がデジカメを使  
うようになってから、いわゆる「写真屋さん」  
は、いつの間にか縁遠くなっていました。当  
然のことながら、町の写真館も今ではデジカ  
メなんです。一〇年くらい前に友人と、「フィ  
ルムのカメラは無くないだろうか」という  
立場で議論をしたことがあります。自分も含  
めてカメラ好きは写真を撮ることよりも、カ  
メラそのものが好きなのだから、という趣旨  
だったと思いますが、今のデジカメは光学製  
品としても十分に魅力的なもので、いつの間  
にかフィルム式カメラへの愛着や郷愁はきれい  
さっぱりと無くなっていました。

しばしば「世の中そんなにすぐには変わら  
ないだろう」という「懐旧派」の議論は、新し  
い商品開発へのためめ努力と時代の流れに  
あつさりといひ越されてしまいます。(K・T)